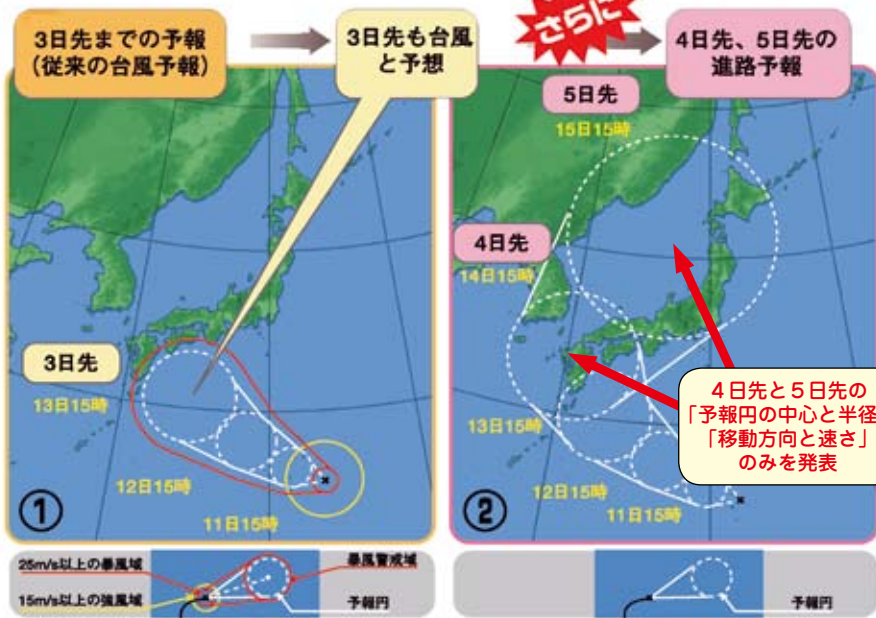


## 3日先も台風と予想された時には、5日先までの台風の進路を予報します。



近年、数値予報の技術向上により、台風進路予報は精度が良くなりました。このため、気象庁は、平成21年度から台風に対して、従来の3日先までの予報に加え、4日先及び5日先の「進路の予報」を発表します。これにより、台風の進路の見通しが分かるため、転向する台風についても早期対応が可能となります。

沖縄県ではこれから台風のシーズンとなります。台風の接近時には、常に新しい情報を受け取り、暴風域に入った場合、不要不急の外出を控えましょう!!

## 5日先までの台風進路を予報

### 【台風情報で用いる用語の解説】

予報円	台風の中心が到達すると予想される範囲（台風の中心が予報円に入る確率はおよそ70%）
暴風域	台風の周辺で、平均風速が25m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域
強風域	台風の周辺で、平均風速が15m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性のある領域
警戒域	台風の中心が予報円内に入ったときに、暴風域に入るおそれのある領域

## 「竜巻注意情報」で竜巻への注意を呼びかけます 竜巻発生の可能性に応じた段階的な情報発表を行います。

### 情報発表のタイミング



〇〇竜巻注意情報 第1号  
平成XX年11月07日13時09分 △△地方気象台発表

〇〇県では、竜巻が発生するおそれがあります。

竜巻は積乱雲に伴って発生します。雷や風が急変するなど積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。

この情報は、07日14時10分まで有効です。

対象地域  
中部、南部、東部

いつまで注意が必要か明記しています。(発表から約1時間が目安)

※「竜巻注意情報」は、「竜巻」だけでなく、発達した積乱雲に伴って発生する激しい突風(ダウンバースト・カストフロント)も対象としています。

現在の観測・予測技術では、竜巻等激しい突風の発生を事前に予測できない場合もあります。

現在の予測技術では、竜巻がいつ、どこで発生するかの予報は困難ですが、竜巻が発生しやすい気象状態であることを予測することは可能であり、それを皆さんにお知らせする情報が、竜巻注意情報です。

1991年から2008年までの竜巻発生数は、沖縄県が最も多く79個、2位の北海道が50個で、全国的に見ても沖縄がいかにか多いかが分かります。

気象台から発表される竜巻注意情報を見聞きしたら、注意して上空を観察してください。もし、黒い雲の接近や雷鳴が聞こえたら、近くの丈夫な建物に一時的に避難しましょう。また、建物の中では、飛来物でガラスが割れる場合がありますので、窓ガラスから離れましょう。少しの行動で竜巻から身を守ることができます。

## 竜巻注意情報をご存知ですか？